



日野町地域おこし協力隊活動記



日野町では、平成27年度から谷口智哉さんと鵜瀬ゆりさんの2名が地域おこし協力隊として活動しています。

このコーナーでは、地域に根ざし、新たな風を吹き込む隊員とその活動、想いを紹介します。



鵜瀬 ゆりさん

日頃、近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」でお膳を提供している日野の伝統料理を継承する会の活動のほか、町内の食にまつわる方々と一緒にさせていただく機会が増えました。その一つが1月末に開催された「第一回ふるさとのお食



谷口 智哉さん

毎年2月最初の午の日には、全国各地の稲荷神社で、豊作や開運、家内安全を祈願する「初午」が行われています。京都市伏見区に住んでいた頃は、近くの伏見稲荷大社にも参拝によく訪れていましたが、初午という言葉は聞いたことがありませんでした。



色々と調べてみたところ、今年の初午は2月12日。北脇にある諸木神社でも行われることが分かりました。当日の朝9時に伺うと、中在寺と北脇の神主さんや諸人さんのほか、見学者の方がおられました。ちなみに諸木神社には稲荷神社がありません。

つりー「日野」です。町内の方から声をかけていただき、実行委員の一人として携わらせていただきました。日野町でとれたものを使った家庭料理や、昔ながらのお料理を皆さんからご提供いただいて、その料理を参加者の方に試食いただくコーナーを設けるとともに、日野の特産品が買えるコーナーも用意しました。都市部では手作りの食事を口にする機会が少なくなりましたが、日野町では多くの家庭に手作りの食文化が残っていると思います。その日野町の食、ふるさとの味の良さを再認識

まず、本殿にお供え物をした後に境内を回り、お稲荷さんの使いである狐に油揚げの入ったかやくご飯を椿の葉に乗せお供えする「施行」が行われます。その後、厄除けのため御神木に据えられた的に向かつて、神主さんと諸人さんの4人が交互に矢を放ちます。このような珍しい神事が行われていることは、中在寺や北脇に住んでいる方もあまり知らないというところにびっくりしました。詳しくはブログにも載せていますので、一度覗いてみてください。
<http://hino-shiga-saku.net/>



し、家庭でも昔ながらの味を作ろうと思うきっかけになれば良いなと思います。

おかげさまでたくさんの方にご参加いただき、「参加してよかった」との多くの声もいただきましたので、来年も開催出来ればと実行委員一同考えています。

※食まつりで提供したレシピをCOOKPADに掲載していますので、ぜひお試しください。
<https://cookpad.com/kitchen/16217411>



隊員の活動は、日野町ホームページでも確認できます。
これからも地域で活躍する地域おこし協力隊にご期待ください！

問い合わせ先 ◆ 商工観光課 商工観光担当 ☎0748-52-6562

さらなる活躍を誓い

地域おこし協力隊活動報告会が開催されました

3月1日(水)、日野町林業センターで地域おこし協力隊の谷口隊員と鵜瀬隊員が、これまでの活動経過の報告やこれから取り組んでいく事業、意気込み等を話されました。

会場には2人の取り組みに関わった方等も多く訪れ、2人の活動への感想や提案等を伝えられました。

谷口隊員は「発見と交流で日野町のファンをつくり増やすための活動」として、日野町の自然や歴史、伝統等の地域資源の掘り起こし(再発見)を行い、その資源を活用した着地型観光の企画等の活動に取り組んでおられます。

報告では『日野行脚』と称して自転車等で各地区をまわって発見した珍しいものや場所を由来とともに紹介されました。また、「情報発信は大きなことをしよう」と意気込みまず、SNS等を利用して「こんなことがあったよ」と写真と一緒に掲載する等、小さなことからみんなが取り組んでいけば良くなると思います」と話されました。

鵜瀬隊員は「食と伝統文化を通じて人の心を豊かにする活動」と

して、近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」を活用した「地産地消費体験レストラン」の企画・運営補助等のトータルコーディネートのほか、町内外への情報発信等の活動に取り組んでおられます。

報告ではふるさと館での食体験事業の実績報告や改善されたところ、これからより良くしていくため取り組みむこと等について話されました。鵜瀬隊員は「私は日野に来て新たなことをはじめたわけではありません。これから日野町のファンの一人として日野にあるいろいろなところや素敵なところを広げていきたいです」と話されました。

これから日野町地域おこし協力隊の活躍にご期待いただき、住民の皆さんのご協力をお願いします。



感雑向綿

2017年4月

日野町長 藤澤直広

風にそよぐ淡いピンクのホイノボリ、春を告げる南山王山の祭り。桜の花が咲き誇る春本番。五穀豊穡と家内安全を願う町内各地で春祭りが行われます。田んぼではトラクターがエンジン音を響かせいよいよ農作業の始まり。五穀豊穡には農業用水が欠かせません。

大字清田の水利は大きく2系統。一つは砂川からの取水。深山口との境に大井堰、中流に小井堰があり砂川の両岸を灌漑します。もう一つは新溜を中心とした系統。新溜、古溜は裏の谷を灌漑。鎌掛ダムから下駒月、深山口を経由し送水される峯山線水路は尾根筋にあり左右の谷田を灌漑。峯山線から分岐しサイホンで扇畠線水路に送水、サイホンで谷間を超え扇畠などを灌漑します。これらの水路は昭和30年代に整備されました。鎌掛から山越え谷超え本当に水が来るのかと思ったそうです。圃場整備前は、川からポンプに長いホースをつないだり、バヂカルという筒状のパイプを発動機で動かして水揚をしました。昭和50年代に圃場整備が施工さ

れ新溜からポンプアップで各水路にも送水できるようになりました。用水は自由に取水することができず。でも水不足の時は農業組合が管理し灌漑することもあります。これを「番水」とよび勝手に取水すればその田んぼが干上がっても送水しないというのが「掟」。こうした仕組みはどの地域にもあります。米を作り生計を立てるために大切な水利は集落自治の要でもあります。山も川も道も田んぼもすべて集落のもの、みんなで管理します。自然と向き合い生産を営み人々が助け合っている社会があります。

近江日野交流ネットワークが「近畿の食と農インバウンド推進協議会」から近畿農政局長賞を受賞されました。外国人を受け入れる農村体験が評価されたのです。今年も3000人以上の子ども達や外国人が田舎体験でやってきます。豊かな自然と温かい人のつながり、この大切さが今、再認識されています。地域に誇りをもって元気な町をつくるために力を合わせましょう。